

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	ニチイのほほえみ恵庭(1Fすずらん)	評価実施年月日	H22年2月10日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	H22年2月12日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念	地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。		各ユニットの入り口に掲示している。
2 理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		今後も会議等を利用し理念の確認に努めて行きたい。
3 家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。		毎日の入居者の様子や行事などの写真を掲載したおたよりに、毎月担当からのコメントを付けてご家族にお送りしている。ご家族の来訪時には介護記録を見て頂いたり、担当スタッフから日常の様子をお伝えするなどしている。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。		グループホームの存在を知っていただくために、行事などでは声を掛けさせていただいている。夏場は玄関の開放を行っているため、ご近所のお子様などが訪れてくださることもあり。
5 地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		町内会に加入しており、行事などにも参加させていただいている。
6 事業者の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		夏場には入居者・スタッフと一緒に近隣のゴミ拾いを行ない、運営推進会議でも報告をしている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。
			理念の説明は行っていないが、出来るだけ地域に出て行く取り組みを行なっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	自己評価を行うことで、ホームの取り組みなどを再確認することが出来る。	改善点を真摯に受け止め、取り組みに関して振り返りを行なっていきたい。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	入居状況や事故報告、近況などをお伝えし、ご意見を頂き、サービス向上に反映させている。	今後もご家族の思い、地域の方々の思いを受け止め、サービスに生かせるように努めていきたい。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	行事などには声を掛けさせていただき、ホームの様子を見ていただけるよう努めている。	秋祭りや防災訓練にも参加いただいた実績あり。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	恵庭市介護福祉課にて勉強会の機会があり、スタッフに参加してもらっている。	制度の仕組みが難しいためか、理解は得られていない。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	ホーム会議、ユニット会議では度々話し合いの場が設けられており、見過ごすことが無いよう、スタッフ間の連携を大切にしている。	入居者の言動や行動にも注意を払っている。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約時には十分な時間を設け、ご家族から尋ねやすいよう配慮している。また、契約前のアセスメントの段階から契約までの間にも密に連絡を取り合い、不安の軽減に努めている。	ユニットリーダーやケアマネにも同席してもらい、ご家族のニーズの把握や、ケア側の意見もご家族に伝えられるようにし、出来るだけ安心してご入居いただけるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃より入居者の言葉に耳を傾けている。得られた情報や思いを管理者や職員が把握し、改善が必要な事項についてはユニット会議やカンファで話し合いを行ない、運営に反映させている。		入居者が自由に意見を表明できよう、日頃から雰囲気作りを心がけている。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族の面会時に、管理者や担当スタッフより健康状態や生活の様子をお伝えし、ご家族からも情報を頂くようにし、併せておたよりでの報告も行なっている。		今後ともご家族とのコミュニケーションを図るほか、介護記録の開示により、ご家族に周知して頂けるよう努め、信頼関係を築いていきたい。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や家族会の開催を通して、ホームの動きをお知らせすることにより、ご家族の意見も頂いている。また面会時には個別にお話しする機会があるため、意見や希望を伺うよう努めている。ご意見箱も設置している。		今後とも意見や希望を気軽に言っていただけるよう、関係を密にしていきたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ホーム会議やユニット会議、委員会活動を通じて、意見交換の場を設けている。また、時間や機会を特に決めず、管理者へ話すことが出来る雰囲気になっている。		今まで以上にスタッフから積極的に意見や提案がもらえるよう、積極的に働きかけていきたい。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者やご家族の状況の変化には常に対応しており、負担が掛らないよう配慮している。必要時には勤務調整などを行なっている。		勤務体制に余裕が出来れば、個々の入居者の要望に応じた、きめ細かいサービスを実現させたい。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	日頃からスタッフの行き来を行なう状況を作り、顔を覚えていただくようにしている。スタッフのユニット異動が必要な場合は、予め1ヶ月以上の期間をおき、異動先のユニットの情報収集が出来よう配慮している。		ユニットの異動は最小限に留め、馴染みの関係を継続できるよう努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>恵庭市内のグループホームネットワークの会では、スタッフ研修の機会を積極的に行なえるよう話し合いがなされており、徐々にではあるが実現できている。</p>	<p>ホーム内では今年より学習委員を設置した。知識や技術の向上に取り組んでいきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域のグループホームネットワークの会で企画した勉強会を実施するなどし、スタッフに参加してもらっている。</p>	<p>交流を深め、情報交換などを行うことにより、他事業所の良い部分を参考にし運営に取り入れていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>休憩室を設け、気分転換を図る時間を作っている。</p>	<p>本来は、入居者の存在を感じさせない場所での休憩や休息が出来る、より良いと感じる。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>それぞれの職員の状況を見て、面談等により目標の設定に努めている。</p>	<p>スタッフ自身も入居者に興味を持ち続けることが大切だと思うため、ケアの中における疑問や課題を解決していく喜びを実感できるような目標設定を心がけている。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご本人の話には耳を傾け、じっくりと話を聞くよう心がけている。その内容を生活に反映できるよう配慮している。</p>	<p>御本人のニーズをくみ取り、信頼関係の構築に努めている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族の思いを大切に、これまでご自宅での介護の様子や、これからの希望などを聞き、実現できるよう話し合いを行なっている。</p>	<p>ご家族の入居者に対する思いを受け止め、少しでも理解・共感できるよう努めている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族からの要望やご本人との会話の中で情報をくみ取り、カンファレンスで話し合いを行なっている。		ご本人やご家族から要望があった時には、即対応が出来るよう努めている。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	お試しのシステムが無い為、本サービスの利用が現状ではあるが、利用開始に際しては環境の変化があると思われるため、ご家族にも協力を頂き、不安への軽減に努めている。また、一日も早く馴染めるように、他者との仲介にも努めている。		入居時の不安解消のため、他者との仲介、受容・傾聴の対応に努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	スタッフ一人一人が、ご本人から得た事や学んだことを他スタッフにも伝え共有し、スタッフが変わってもご本人を支えられるよう努めている。		朝礼・夕礼時の申し送りなどで、入居者の状況を報告し、共有に努めている。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の来訪時には、記録の開示や近況報告を行ない、日頃の様子を知って頂く。必要な場合は、ご家族とも一緒に対策などを考えている。		ホームでどのような生活をされているか把握して頂くために、ご家族には出来るだけ情報を提供している。ご本人の生活を理解していただくことにより、一緒に支えあう関係を築いている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族には出来る限りの情報を提供し、会っていない間の空白を埋める事ができるよう配慮している。		毎月のおたよりの発行と共に、必要に応じて電話連絡なども行なっている。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人の希望があれば、電話の取次ぎや外出への対応を行なっている。		面会時間などは制限せず、いつでもお会いできる環境に努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	体操や散歩、調理などの時間を取り入れ、入居者同士の交流の場を設けている。また、居室の行き来が出来るよう、時々スタッフが仲介などを行っている。		今後も入居者が孤立しないよう、スタッフが連携し仲介を行なっていく。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他事業所へ移られた方や、入院者への面会を行なっている。		退去された方のご家族がボランティアに来てくださるなど、関係が続いているケースもある。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の思いや意向は共通事項とし、スタッフ全員で把握するよう努めている。本人の行動や言動を見ながら情報を集め、本人の立場に立った対応を行なっている。		困難な場合には、スタッフ・計画作成者・管理者が協議を行ない、ご家族の希望も考慮したうえで対応するよう努めている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	各フロアには入居者の個人ファイルが保管されており、過去の情報や、カンファレンスで話し合った内容が確認することが出来るようになっている。		日常生活の中で気づいたことがあれば、過去の情報などと照らし合わせ、サービスに生かすよう努めている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている。	その日一日、入居者がどのように生活されていたのかを、申し送りで情報共有している。また、業務中で気づいたことがあれば、その都度スタッフ間での情報共有に努めている。		申し送り漏れや情報共有が出来ていないと統一した対応が出来ないため、漏れが無いようにする事が肝心。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	カンファレンスでは、現状の把握に努めるため、スタッフ全員で振り返りを行なっている。ご本人・ご家族・スタッフの意向を取り入れ、場合によっては検討を重ね、より良い生活が出来るようケアプランの立案を行なっている。		今後も、ご本人・ご家族・スタッフが一体となってアイデアを出し合い、ケアに反映させたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的にカンファレンスを行ない、現状の把握に努め見直しを行なっている。		ケアマネは各関係者と話し合い、各所の意見を基に計画作成を行なっている。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	スタッフ全員が周知するため、連絡表を用いて情報共有に努めている。また、日々の気づきを大切に、介護計画の見直しに努めている。		出来るだけ多くの情報を得て、介護計画に反映できるようにしなければならない。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ニーズがあったときに即対応できるよう、スタッフは臨機応変な対応を心がけている。		より柔軟な対応が出来るよう努めたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	毎月のボランティアの来訪、半年に1度の消防訓練など、地域との連携を絶やさないようにしている。		今後も、行事などには積極的に声をかけて、参加していただけるようにしたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用前の担当ケアマネと連絡を取り合う機会はあるが、一部の入居者のみとなってはいるが、必要に応じて他のサービスを利用する際には支援を行なっている。		敬老会への参加が可能な方もいる為、受け入れ側の意向も確認した上で利用の実現にあたりたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	今のところ運営推進会議のほか、行事にも参加していただくこともあるが、長期的なマネジメントについての関与は得られていない。		今後も密な連携をとり、相談事をおこなって行きたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>月に2回の往診をして頂いている。状況によっては受診の対応も可能となっている。</p>		<p>主治医との連携は取れているため、それ以外のかかりつけ医との密なやり取りも行なって行きたい。</p>
<p>44</p> <p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>主治医は認知症の理解もあり、状況によってアドバイスもして下さる。</p>		<p>今後も認知症の進行、身体レベルの低下は考えられるため。</p>
<p>45</p> <p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護職の確保は行っていないが、往診時や受診時にかかりつけ医の看護師に相談事を行なっている。</p>		<p>気軽に相談できる支援体制を作って行きたい。</p>
<p>46</p> <p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時に際しては治療計画の確認を必ず行なう。入院中はこまめに病院へ伺い、状況確認と情報交換に努めている。</p>		<p>入院中の状況はスタッフにも情報提供し、退院後のケアに生かしている。</p>
<p>47</p> <p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>現在、終末期に向けての意思確認をご家族・主治医と行なっているが、医療連携体制が整備されていない為、最終的には医療に委ねる状況にあるため、ご本人・ご家族の希望に副えるような対応に努めたい。</p>		<p>早い段階での話し合いを密にし、相互の意思確認を行なっていく必要がある。</p>
<p>48</p> <p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>レベルに応じたケアの見直しを行ない、医師との連携に努めている。</p>		<p>日中の緊急対応は主治医でも可能であるが、夜間については他院への救急搬送を余儀なくされているため、ご本人・ご家族が安心して生活が送れるよう、緊急時の対応について明確にしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>知りうる情報を出来るだけ提供し又は提供していただき、ケアの継続が出来るよう配慮している。</p>		<p>認知症者にとって環境の変化が大きなダメージを与えることを十分に理解し、対応するように努めている。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>相手を思いやる対応を心がけ徹底している。また、記録類に関しても放置しないよう管理の場所を決めている。</p>		<p>年に1度、会社として全職員に対し、個人情報の取り扱いに関する確認テストを行ない、意識付けている。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日常生活において、一人一人に意思や意向、生活リズムがあることを認識し、自己主張ができるよう働きかけている。</p>		<p>入居者にとっての役割を理解し、支援するよう努めている。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>生活の主体は入居者であるため、ご本人のペースを大切にしながら、希望に沿えるよう働きかけを行なっている。</p>		<p>一人一人の希望を聞き、日々の生活に反映させている。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>現在は訪問理美容を利用しているが、希望により行きつけの理美容へ出向くこともしている。</p>		<p>毎日の身だしなみ、希望のおしゃれが出来るよう支援している。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>入居者の気分や体調に合わせて、スタッフと入居者が一緒に準備や片付けを行なっている。また、入居者の好みを考慮したメニューの立案も行なっている。</p>		<p>同じようなメニューだと新鮮味にかけるため、常に工夫が必要と思われる。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	糖尿病の入居者がいるため配慮し、15時のおやつは禁止としている。その代わりに、食事時の提供であれば可能との事で、主治医の指導の下、対応をしている。		希望があれば主治医に確認した上で提供が可能。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	入居者の身体状況に合わせた排泄の支援を行なっている。		おむつの使用を無くし、個々の排泄パターンに合わせた排泄支援が出来る。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	相手の希望に合わせた入浴の支援を行なっている。		出来るだけ入居者の希望する時間帯での入浴を心がけている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夜間の安眠に繋がれるよう、日中の活動内容を考慮している。		スタッフのペースで入眠を促さず、ご本人の希望によりTVを見たり、談話する時間など、入眠前の時間を大切にしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ボランティアの来訪や外出など、気晴らしの時間や計画を設け実行している。		入居者の趣味・嗜好を考慮し、支援を行なっている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	運営規定により、金銭の自己管理はして頂いていない。ご本人の要望により買い物などの機会や外出の機会を支援している。		お買い物などの時には、出来るだけご自分でお支払いができるような支援を心がけている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ご本人の希望に応じて外出の支援ができています。		冬場以外は、毎朝の散歩を取り入れ、気分転換や精神の活性化、健康面にも配慮をしている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者とのコミュニケーションの中から希望をくみ取り、外出を計画・実行している。		車椅子利用の入居者の外出頻度が減らないよう配慮していきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者の希望に応じて、手紙の代筆、代送、電話の取次ぎがなされている。		ご家族の中にはお仕事をされている方も多いため、常識の範囲内での対応を心がけている。深夜・早朝に希望が聞かれた際には、その旨をご本人にお話し、理解を得られるようにしている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間の制限は行わず、希望に応じて居室あるいはリビングなどで気軽に面会をして頂いている。		面会者がリビングで面会される時は、他の入居者にもお声を掛けてくださったりするなど、良い関係が保たれている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	会議等を利用して、高齢者虐待や身体拘束についての話に触れる場を設け、一人一人のスタッフが、身体拘束は行わないという認識を持ってケアにあたっている。		入居者の立場に立って、安全配慮を行なうよう努めている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夏場は玄関を開放し、入居者が自由に戸外を行き来できるよう工夫している。		夜間は防犯上、玄関の施錠は行なっているが、日中に関しては、全館鍵を掛けないことを徹底している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	スタッフの連携を密にし、所在確認を徹底している。		フロアを離れるときは、必ずスタッフ同士の声掛けを行なっている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険物品や薬品に関しては、保管場所が決められている。また、調理器具の取り扱いに関しては、使用時には入居者のそばを離れず、見守り・安全確認をしている。		適材適所を心がけている。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	入居者一人一人に応じた危険予測を行ない、安全配慮に努めている。		ホーム独自で、略式のヒヤリハット報告書を作成し、危険予測に役立てている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	全スタッフが救急救命講習を受講している。緊急時の対応ができるよう、資料を準備し、定期的に会議等の中で周知を行なっている。		今後も定期的に応急対応の実技訓練を行なって行きたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の消防訓練の実施をおこなっている。		訓練時には、毎回ご近所の方にも参加していただけるよう、呼びかけをしていきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居前後には、ご家族に対し、起こりうるリスクを出来るだけ説明している。また、入居後に新たなリスクが生じる恐れがある場合にも、事前に情報をお伝えし、ご理解いただけるよう努めている。		ご家族にとっては、ホーム側がどのような対応をしてくれるのかが知りたいと思うので、できるだけ具体的な対策が挙げられるよう努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>一日2回のバイタル測定を実施。また、異常が見られた時には、速やかに主治医へ連絡をし指示を仰いでいる。</p>	<p>日頃よりスタッフの連携を密にし、入居者の体調変化を早期に発見できるよう努めている。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬内容をいつでも確認できるよう、各フロアには服薬ファイルが保管されている。</p>	<p>処方に変更になった場合には必ず申し送りを行ない、症状の変化の早期発見に努めている。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>日頃から食物繊維の多い食事の提供や、水分摂取(1300~1500cc目標)、適度な運動の促しなどに配慮している。</p>	<p>毎日の排便状況の確認を行なっている。概ね、自然排便が促せているが、中には下剤を内服している方もいる為、自然排便を目標としていきたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアを行なっている。磨き残しがないかチェックを行なうと共に、場合によっては歯科受診なども行なっている。</p>	<p>いつでも対応が可能な近所の歯科医院の訪問診療も受けられる状況となっている。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事・水分の摂取量を毎日チェックし、低栄養・脱水にならないよう配慮している。</p>	<p>入居者の中には、朝食を食べない習慣の方もいらっしゃるため、一人一人の生活習慣に合わせた対応を行なっている。その場合、服薬時の胃への負担を軽減するため、水分(牛乳や水またはゼリーなど)をしっかり摂って頂いたうえで、内服していただくよう心がけている。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>年間を通して、来訪者の方々には手洗いうがいをお願いしている。また、感染の流行期などに合わせて、入居者には外出時のマスク着用をお願いしている。感染症に対する予防や対応をマニュアルとして設置すると共に、時期に応じて指示・指導を行なっている。</p>	<p>全スタッフがいつでもマニュアルを取り出すことができるよう、各フロアに設置している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理器具・食器等は使用後に毎回消毒を行なっている。定期的な食品庫・冷蔵庫内の整理整頓、清掃を行なっている。		刺身などのなま物の提供時期を決めている。また、食材の加熱・保存法にも注意を払っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	入居者が思い思いに出入りが出来るよう、夏場は玄関前にベンチを設置。また、手すりやスロープを設け、容易に出入りができる作りになっている。		玄関周辺には花などを植えているため、眺めていく方もいらっしゃる。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	季節に合わせて、創作物や生け花などを配している。また、不快にならない程度の音量で音楽を流したり、日差しが強い時にはカーテンを引くなどし、心地よく過ごせるよう配慮している。		より家庭的な雰囲気となるよう、インテリアの配置などにも配慮していく。
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	共有空間にはソファやイスなどの寛ぐスペースを作り、一人になれたり、気のあったもの同士が過ごせる場所を確保している。		和室の利用が日常化されていないため、気軽に活用できるよう考慮していきたい。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入居時に使い慣れた物を持ち込んで頂き、安心した場所となるよう配慮している。		事故防止に努め、家具や装飾品の配置を工夫している。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	気になる臭いやよどみがないよう、冬場でも換気等に気を配っている。		トイレの換気扇が小さいため、こまめな換気を心がけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		<p>残存機能の維持を目標としているため、できる事はご自分で行なえるように働きかけている。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		<p>失敗や混乱を繰り返さないよう、スタッフ間の情報共有に努めている。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		<p>夏場はベランダで日光浴や夕涼みを行なっている。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>介護記録のファイルに個々のケアプランを綴じ、スタッフが周知できるよう工夫している。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>AM・PMのお茶の時間にはスタッフも同席し、入居者とのコミュニケーションの時間に努めている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>一人一人のペースを大切に、決してスタッフのペースを押し付けられないよう配慮している。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>入居者の表情が穏やかであり、意欲的に動いている場面が多い。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>入居者の希望に沿えるよう、計画・実行を行なっている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>主治医による往診のほか、定期受診・臨時受診も行なっている。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>入居者に合わせた対応を心がけており、臨機応変に対応している。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>ご家族の来訪時には日頃の様子をお伝えし、信頼関係の構築に努めている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>ボランティアの方々にご協力を頂いており、馴染みの関係となっている。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	入居の問い合わせが徐々に増えてきている。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	これまで離職率が少なかったため、長期的に働いているスタッフのモチベーションの維持が難しい。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	入居者からの苦情がほとんど聞かれていない。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	ご家族からの要望に対し、できるだけ速やかな対応を心がけている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 入居者優先のケアを心がけ実践している。コミュニケーションが入居者の精神の安定に繋がると思われるため、寄り添う介護に取り組んでいる。また、現有能力・残存機能の維持・向上のため過剰な支援は行わず、できない事についてのお手伝いに努めている。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	ニチイのほほえみ恵庭(2Fかわせみ)	評価実施年月日	H22年2月10日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	H22年2月12日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「第二の家庭の実現」という理念の下、取り組んでいる。		各ユニットの入り口に掲示している。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ホーム会議、ユニット会議を通して、理念の共有をし取り組んでいる。		ご家族の立場に立ち、入居者一人一人に接している。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議を通して、外部の人にも理解してもらえるよう働きかけをしている。また、理念を掲示し、外部の方やご家族にも目に触れるように配慮している。		沢山のボランティアの方々にご協力いただいているため、まずはそこから浸透していけるようにしたい。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	毎日の散歩を通して、声を掛けていただけるようになってきている。		町内会活動にも積極的に参加し、地域の方々との交流の場を設けて行きたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入しており、行事などにも参加させていただいている。		今後も町内会活動に積極的に参加し、交流の場を広げて行きたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	夏場には入居者・スタッフと一緒に近隣のゴミ拾いを行ない、運営推進会議でも報告をしている。		昨年より行なったため、今年も取り組んで行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	自己評価を行うことで、ホームの取り組みなどを再確認することが出来る。	改善点を真摯に受け止め、取り組みに関して振り返りを行なっていきたい。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	入居状況や事故報告、近況などをお伝えし、ご意見を頂き、サービス向上に反映させている。	ホーム行事の開催時、頂いた意見を盛り込んだ経緯あり。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	行事などには声を掛けさせていただき、ホームの様子を見ていただけるよう努めている。	秋祭りや防災訓練にも参加いただいた実績あり。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	恵庭市介護福祉課にて勉強会の機会があり、スタッフに参加してもらっている。	スタッフが理解できるよう、分かりやすく解説できるようにしていきたい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	ホーム会議、ユニット会議では度々話し合いの場が設けられており、見過ごすことが無いよう、スタッフ間の連携を大切にしている。	入居者の言動や行動にも注意を払っている。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約時には十分な時間を設け、ご家族から尋ねやすいよう配慮している。また、契約前のアセスメントの段階から契約までの間にも密に連絡を取り合い、不安の軽減に努めている。	契約後も、ご家族様からのご意見やご質問を聞くよう努め、ご理解を頂けるようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見や不満、苦情はいつでも聞ける体勢をとっており、管理者とスタッフは入居者とのコミュニケーションを大切にし、困っていることがないかなど、会話や行動からくみ取る様努めている。		入居者が自由に意見を表明できよう、日頃から雰囲気作りを心がけている。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族の面会時に、管理者や担当スタッフより健康状態や生活の様子をお伝えし、ご家族からも情報を頂くようにし、併せておたよりでの報告も行なっている。		今後もご家族とのコミュニケーションを図るほか、介護記録の開示により、ご家族に周知して頂けるよう努め、信頼関係を築いていきたい。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や家族会の開催を通して、ホームの動きをお知らせすることにより、ご家族の意見も頂いている。また面会時には個別にお話しする機会があるため、意見や希望を伺うよう努めている。ご意見箱も設置している。		今後も意見や希望を気軽に言っていただけるよう、関係を密にしていきたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ホーム会議やユニット会議、委員会活動を通じて、意見交換の場を設けている。また、時間や機会を特に決めず、管理者へ話すことが出来る雰囲気になっている。		スタッフの意見を出来るだけ尊重し、まずはスタッフの希望とおり取り組んでみられている。必ず1ヶ月後に見直しの場を設け、継続か否かを協議している。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の希望に応じて対応できるよう、勤務調整に努めている。		対応日にはスタッフの配置を厚くするなど、ケアに穴が開かないよう配慮している。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	スタッフの異動は最小限にとどめ、むやみに行なわないようにしている。		日頃より1F・2Fにかかわらず、ホーム全体の入居者に対して挨拶を交わすよう指導しており、異動があった場合でのダメージを軽減できるよう努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>恵庭市内のグループホームネットワークの会では、スタッフ研修の機会を積極的に行なえるよう話し合いがなされており、徐々にではあるが実現できている。</p>	<p>ホーム内では今年より学習委員を設置した。知識や技術の向上に取り組んでいきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域のグループホームネットワークの会で企画した勉強会を実施するなどし、スタッフに参加してもらっている。</p>	<p>交流を深め、情報交換などを行うことにより、他事業所の良い部分を参考にし運営に取り入れていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>休憩室を設け、必ずフロアから離れて休憩を取るようし、気分転換を図る時間を作っている。</p>	<p>本来は、入居者の存在を感じさせない場所での休憩や休息が出来る、より良いと感じる。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>状況に応じての昇格・昇給制度がある。また、スタッフの意見を尊重した運営を心がけている。</p>	<p>ケアにおける疑問や課題を解決していく喜びを実感できるような目標設定を心がけていきたい。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご本人の話には耳を傾け、じっくりと話を聞くよう心がけている。その内容を生活に反映できるよう配慮している。</p>	<p>御本人のニーズをくみ取り、信頼関係の構築に努めている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前のアセスメント時に、ご家族やご本人のお困り事を聞くようにしている。受容と傾聴を心がけ、入居後も必要に応じてカンファレンスで取り上げ、対応の検討に努めている。</p>	<p>入居前に何度か足を運んでいただき、ホームの様子をご覧頂いたり、入居者と一緒にお茶を飲むなどして頂いた経緯あり。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族からの要望やご本人との会話の中で情報をくみ取り、カンファレンスで話し合いを行なっている。		初期対応の遅れにより、ニーズに支障をきたさないよう、迅速に対応するよう心がけている。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	お試しのシステムが無い為、本サービスの利用が現状ではあるが、利用開始に際しては環境の変化があると思われるため、ご家族にも協力を頂き、不安への軽減に努めている。また、一日も早く馴染めるように、他者との仲介にも努めている。		入居時の不安解消のため、他者との仲介、受容・傾聴の対応に努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者の過去について傾聴し、経験上知りえた知識や出来事を語って頂くことにより、入居者から学ぶことも多い。		些細な会話の中から学ぶことが非常に多くある。人生の先輩として、尊敬の念を抱き、関わりを持つことを忘れないようにしている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の来訪時には、記録の開示や近況報告を行ない、日頃の様子を知って頂く。必要な場合は、ご家族とも一緒に対策などを考えている。		ホームでどのような生活をされているか把握して頂くために、ご家族には出来るだけ情報を提供している。ご本人の生活を理解していただくことにより、一緒に支えあう関係を築いている。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族には出来る限りの情報を提供し、ご家族が入居者との関係を良好に継続できるよう配慮している。		毎月のおたよりの発行と共に、必要に応じて電話連絡なども行なっている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人の希望があれば、電話の取次ぎや外出への対応を行なっている。		入居者が生まれ育った地域の事や、昔の思い出話などを通して、いつまでも馴染みの関係を絶やさないよう努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	体操や散歩、調理などの時間を取り入れ、入居者同士の交流の場を設けている。また、居室の行き来が出来るよう、時々スタッフが仲介などを行っている。		今後も入居者が孤立しないよう、スタッフが連携し仲介を行なっていく。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他事業所へ移られた方や、入院者への面会を行なっている。		退去された方のご家族がボランティアに来てくださるなど、関係が続いているケースもある。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の行動や言動を見ながら情報を集め、本人の立場に立った対応を行なっている。		本人からの表意が困難な場合には、スタッフ・計画作成者・管理者が協議を行ない、ご家族の希望も考慮したうえで対応するよう努めている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	各フロアには入居者の個人ファイルが保管されており、過去の情報や、カンファレンスで話し合った内容が確認することが出来るようになっている。		日常生活の中で気づいたことがあれば、過去の情報などと照らし合わせ、サービスに生かすよう努めている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	その日一日、入居者がどのように生活されていたのかを、申し送りで情報共有している。また、業務中で気づいたことがあれば、その都度スタッフ間での情報共有に努めている。		申し送り漏れや情報共有が出来ていないと統一した対応が出来ないため、漏れが無いようにする事が肝心。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	カンファレンスでは、現状の把握に努めるため、スタッフ全員で振り返りを行なっている。ご本人・ご家族・スタッフの意向を取り入れ、より良い生活が出来るようケアプランの立案を行なっている。		実際のニーズと介護計画に温度差が生じないよう、希望や意見の確認を行なっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的にカンファレンスを行ない、現状の把握に努め見直しを行なっている。		ケアマネは各関係者と話し合い、各所の意見を基に計画作成を行なっている。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	スタッフ全員が周知できるよう、ホーム独自で連絡表を作成し情報共有に努めている。また、日々の気づきを大切に、介護計画の見直しに努めている。		出来るだけ多くの情報を得て、介護計画に反映できるようにしなければならない。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ニーズがあったときに即対応できるよう、スタッフは臨機応変な対応を心がけている。		より柔軟な対応が出来るよう努めたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	毎月のボランティアの訪問のほか、消防訓練や運営推進会議などにも関係各所の方々に参加していただいている。		今後も、行事などには積極的に声をかけて、参加していただけるようにしたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用前の担当ケアマネと連絡を取り合う機会があり、必要に応じて他のサービスを利用する際には支援を行なっている。		地域の老人会への参加が可能な方もいる為、受け入れ側の意向も確認した上で利用の実現にあたりたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	今のところ運営推進会議のほか、行事にも参加していただくこともあるが、長期的なマネジメントについての関与は得られていない。		今後も密な連携をとり、相談事をおこなって行きたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>月に2回の往診をして頂いている。状況によっては受診の対応も可能となっている。</p>		<p>主治医との連携は取れているため、それ以外のかかりつけ医との密なやり取りも行なって行きたい。</p>
<p>44</p> <p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>主治医は認知症の理解もあり、状況によってアドバイスもして下さる。</p>		<p>今後も認知症の進行、身体レベルの低下は考えられるため。</p>
<p>45</p> <p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護職の確保は行っていないが、往診時や受診時にかかりつけ医の看護師に相談事を行なっている。</p>		<p>医療連携体制の整備を早急に行ない、入居者が安心して生活できる環境を整えて行きたい。</p>
<p>46</p> <p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時に際しては治療計画の確認を必ず行なう。入院中はこまめに病院へ伺い、状況確認と情報交換に努めている。</p>		<p>入院中の状況はスタッフにも情報提供し、退院後のケアに生かしている。</p>
<p>47</p> <p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>現在、ニチイ学館としての医療連携体制導入を検討中。その上で、終末期に向けた取り組みや指針を打ち出していくことが望まれる。</p>		<p>終末期におけるケアの在り方などを、スタッフやご家族とも協議をし、不安を与えないようにしなければならない。</p>
<p>48</p> <p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>レベルに応じたケアの見直しを行ない、医師との連携に努めている。</p>		<p>医療と福祉との連携は必要不可欠であるも、グループホームでは制限も多いため、可能な範囲での治療計画をお願いしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ケアマネージャーを通して、知りうる情報を出来るだけ提供し又は提供していただき、ケアの継続が出来るよう配慮している。</p>		<p>認知症者にとって環境の変化が大きなダメージを与えることを十分に理解し、対応するように努めている。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーの確保を心がけ対応している。また、記録類に関しても放置しないよう管理場所を決めている。</p>		<p>年に1度、会社として全職員に対し、個人情報の取り扱いに関する確認テストを行ない、意識付けている。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>一人一人の意思や意向が表せるような声かけを心がけている。</p>		<p>入居者にとっての役割を理解し、支援するよう努めている。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ご本人のペースを大切にしながら、希望に沿えるよう働きかけを行なっている。</p>		<p>一人一人の希望を聞き、日々の生活に反映させている。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>現在は訪問理美容を利用しているが、希望により行きつけの理美容へ出向くこともしている。</p>		<p>毎日の身だしなみ、希望のおしゃれが出来るよう支援している。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>入居者の気分や体調に合わせて、スタッフと入居者が一緒に準備や片付けを行なっている。また、また、入居者の希望を聞き入れた献立も心がけている。</p>		<p>同じようなメニューだと新鮮味にかけるため、常に工夫が必要と思われる。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	糖尿病の入居者がいるため配慮し、当ホームでは行事以外の15時のおやつを控えている。薬でのコントロールをしている方もいるため、食事時の提供に合わせて果物やおやつをお膳につけるなどして提供時間を考慮している。主治医の指導の下、対応をしている。		希望があれば主治医に確認した上で提供が可能。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	入居者の身体状況に合わせた排泄の支援を行なっている。		おむつの使用を無くし、個々の排泄パターンに合わせた排泄支援が出来る。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	相手の希望に合わせた入浴の支援を行なっている。		出来るだけ入居者の希望する時間帯での入浴を心がけている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夜間の安眠に繋がられるよう、日中の活動内容を考慮している。		スタッフのペースで入眠を促さず、ご本人の希望によりTVを見たり、談話する時間など、入眠前の時間を大切にしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ボランティアの来訪や外出の他、ホーム内でのレクの実施や趣味がある方への働きかけをしている。		入居者の趣味・嗜好を考慮し、支援を行なっている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	運営規定により、金銭の自己管理はして頂いていない。ご本人の要望により買い物などの機会や外出の機会を支援している。		お買い物などの時には、出来るだけご自分でお支払いができるような支援を心がけている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ご本人の希望に応じて外出の支援ができています。		冬場以外は、毎朝の散歩を取り入れ、気分転換や精神の活性化、健康面にも配慮をしている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者とのコミュニケーションの中から希望をくみ取り、外出を計画・実行している。		年に数回、ホーム全体での外出を企画し実行している。ご家族が参加されることもある。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者の希望に応じて、手紙の代筆、代送、電話の取次ぎがなされている。		ご家族の中にはお仕事をされている方も多いため、常識の範囲内での対応を心がけている。深夜・早朝に希望が聞かれた際には、その旨をご本人にお話し、理解を得られるようにしている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間の制限は行わず、希望に応じて居室あるいはリビングなどで気軽に面会をして頂いている。		面会者がリビングで面会される時は、他の入居者にもお声を掛けてくださったりするなど、馴染みとなりつつあり、良い関係が保たれている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	会議等を利用して、高齢者虐待や身体拘束についての話に触れる場を設け、一人一人のスタッフが、身体拘束は行わないという認識を持ってケアにあたっている。		入居者の立場に立って、安全配慮を行なうよう努めている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関にはセンサーが取り付けられており、それにより夏場は玄関を開放することができ、入居者が自由に戸外を行き来できるよう工夫している。		夜間は防犯上、玄関の施錠は行なっているが、日中に関しては、全館鍵を掛けないことを徹底している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>スタッフの連携を密にし、所在確認を徹底している。</p>		<p>フロアを離れるときは、必ずスタッフ同士の声掛けを行なっている。</p>
<p>68 注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>危険物品や薬品に関しては、保管場所が決められている。また、調理器具の取り扱いに関しては、使用時には入居者のそばを離れず、見守り・安全確認をしている。</p>		<p>適材適所を心がけている。</p>
<p>69 事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>入居者一人一人に応じた危険予測を行ない、安全配慮に努めている。</p>		<p>ホーム独自で、略式のヒヤリハット報告書を作成し、危険予測に役立てている。</p>
<p>70 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>全スタッフが救急救命講習を受講している。緊急時の対応ができるよう、資料を準備し、定期的に会議等の中で周知を行なっている。</p>		<p>今後も定期的に応急対応の実技訓練を行なって行きたい。</p>
<p>71 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年2回の消防訓練の実施をおこなっている。</p>		<p>訓練時には、毎回ご近所の方にも参加していただけるよう、呼びかけをしていきたい。</p>
<p>72 リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>入居前後には、ご家族に対し、起こりうるリスクを出来るだけ説明している。また、入居後に新たなリスクが生じる恐れがある場合にも、事前に情報をお伝えし、ご理解いただけるよう努めている。</p>		<p>リスクはあるも本人の強い要望により改善が困難な事例については、何度もお家族と相談を重ね、ご本人にデメリットが生じないような対策を協議している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>一日2回のバイタル測定を実施。また、異常が見られた時には、速やかに主治医へ連絡をし指示を仰いでいる。</p>	<p>日頃よりスタッフの連携を密にし、入居者の体調変化を早期に発見できるよう努めている。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬内容をいつでも確認できるよう、各フロアには服薬ファイルが保管されている。</p>	<p>処方に変更になった場合には必ず申し送りを行ない、症状の変化の早期発見に努めている。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>日頃から食物繊維の多い食事の提供や、水分摂取(1300~1500cc目標)、適度な運動の促しなどに配慮している。</p>	<p>毎日の排便状況の確認を行なっている。概ね、自然排便が促せているが、中には下剤を内服している方もいる為、自然排便を目標としていきたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアを行なっている。磨き残しがないかチェックを行なうと共に、場合によっては歯科受診なども行なっている。</p>	<p>いつでも対応が可能な近所の歯科医院の訪問診療も受けられる状況となっている。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事・水分の摂取量を毎日チェックし、低栄養・脱水にならないよう配慮している。</p>	<p>食事が低下している入居者には、医師と相談の上、補食対応をするなど行なっている。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>年間を通して、来訪者の方々には手洗いうがいをお願いしている。また、感染の流行期などに合わせて、入居者には外出時のマスク着用をお願いしている。感染症に対する予防や対応をマニュアルとして設置すると共に、時期に応じて指示・指導を行なっている。</p>	<p>全スタッフがいつでもマニュアルを取り出すことができるよう、各フロアに設置している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理器具・食器等は使用後に毎回消毒を行なっている。定期的な食品庫・冷蔵庫内の整理整頓、清掃を行なっている。		刺身などのなま物の提供時期を決めている。また、食材の加熱・保存法にも注意を払っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	入居者が思い思いに出入りが出来るよう、夏場は玄関前にベンチを設置。また、手すりやスロープを設け、容易に出入りができる作りになっている。		玄関周辺には花などを植えているため、眺めていく方もいらっしゃる。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	季節に合わせて、創作物や生け花などを配している。また、不快にならない程度の音量で音楽を流したり、日差しが強い時にはカーテンを引くなどし、心地よく過ごせるよう配慮している。		過度にならないよう、空間作りに努めている。
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	リビングにはソファを配し、寛げるスペースを確保している。お昼ねしたりおしゃべりするなど、思い思いに過ごせる工夫をしている。		和室の利用が日常化されていないため、気軽に活用できるよう考慮していきたい。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入居時に使い慣れた物を持ち込んで頂き、心地よく過ごせるよう配慮している。		事故防止に努め、家具や装飾品の配置を工夫している。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	こまめに換気を行ない、臭いや空気がこもらないように配慮している。また、気温差にも配慮し、快適に過ごしていただけるよう配慮している。		トイレの換気扇が小さいため、こまめな換気を心がけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ホーム内は比較的広めの作りとなっているため、車椅子や歩行器の自走も容易にできる。また、廊下などには手すりも付けられているため、歩行が不安定な方でも、最小限の介助にて対応ができるようになっている。</p>	<p>残存機能の維持を目標としているため、できる事はご自分で行なえるように働きかけている。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居室には表札をつけ、トイレや浴室も入居者から分かるように暖簾や表示をしている。</p>	<p>失敗や混乱時には即時にサポートができるよう努めている。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関前にイスを設置し、入居者が集えるスペースを確保。その場を利用することでご近所の方とも顔を合わせる事ができ、関わりを持つことに繋がっている。</p>	<p>2Fにはベランダがないため、1Fのベランダへ気軽に行き来ができるように、スタッフからアプローチを行なっている。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>介護記録のファイルに個々のケアプランを綴じ、スタッフが周知できるよう工夫している。</p>
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>AM・PMのお茶の時間にはスタッフも同席し、入居者とのコミュニケーションの時間に努めている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>一人一人のペースを大切に、決してスタッフのペースを押し付けられないよう配慮している。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>入居者の表情が穏やかであり、意欲的に動いている場面が多い。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>入居者の希望に沿えるよう、計画・実行を行なっている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>主治医による往診のほか、定期受診・臨時受診も行なっている。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>入居者に合わせた対応を心がけており、臨機応変に対応している。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>ご家族の来訪時には日頃の様子をお伝えし、信頼関係の構築に努めている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>ボランティアの方々にご協力を頂いており、馴染みの関係となっている。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	入居の問い合わせが徐々に増えてきている。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	これまで離職率が少なかったため、長期的に働いているスタッフのモチベーションの維持が難しい。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	入居者からの苦情がほとんど聞かれていない。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	ご家族からの要望に対し、できるだけ速やかな対応を心がけている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 元気な入居者が多く、生活支援をメインに取り組んでいる。入居者は意思の表出ができ、入居者のその日の気分によりケアの組み立てが行なわれるため、入居者のニーズに合わせた対応に努めている。